

安全データシート

作成日： 2016年 9月 28日

改訂日： 2024年 4月 1日

1. 化学品及び会社情報

製品名 : タニシール (しろ) 品番 : KN91

会社名 : パナソニックハウジングソリューションズ株式会社
住所 : 〒520-3041 滋賀県栗東市出庭19番地
担当部門 : 外廻りシステム事業部 CS・品質保証部
電話番号 : 077-552-0448
FAX番号 : 077-552-0718
緊急連絡先 : 077-552-0448
使用上の制限 : 一般工業用
推奨用途 : RTVゴム プラスチック用接着・シール材
管理番号 : M003

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

物理化学的危険性	危険有害性の分類に該当するという情報はありませ
健康に関する有害性	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分2 皮膚感作性 区分1B 発がん性 区分1B
環境に関する有害性	危険有害性の分類に該当するという情報はありませ

* 記載がない危険有害性は、「区分に該当しない」または「分類できない」である。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

強い眼刺激。 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。 発がんのおそれ。

注意書き

安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。取扱い後はよく洗うこと。汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

応急措置

皮膚に付着した場合：多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断/手当てを受けること。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

保管

施錠して保管すること。

廃棄

内容物/容器を現地/地域/国/国際法律に従って処理すること。

その他の危険有害性情報

本品は水、湿気及び空気中の水分と反応して（加水分解）、下記化合物を生成する。
メチルエチルケトオキシム

想定される非常事態の概要

発がんのおそれ。強い眼刺激。 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物	官報公示整理番号			
		CAS番号	化審法	安衛法	含有量 (%)
成分					
メチルオキシムシラン		22984-54-9	(2)-2039	(2)-2039	3~10
アルコキシシラン(A)		919-30-2	(2)-2061	(2)-2061	0.3~1
アルコキシシラン(B)		1760-24-3	(2)-2083	(2)-2083	0.3~1
メチルエチルケトオキシム (不純物)		96-29-7	(2)-546	(2)-546	0.1~1

分解生成物	CAS番号	官報公示整理番号		
		化審法	安衛法	含有量 (%)
メチルエチルケトオキシム	96-29-7	(2)-546	(2)-546	

化審法：全成分登録済保証。

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移動する。症状が悪化したり継続したりする場合は医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	汚染された衣服を直ちに脱ぎ、皮膚を石鹸と水で洗うこと。皮膚に少量付着した場合、影響を受けていない皮膚に物質が広がるのを防止すること。皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診断／手当てを受けること。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
目に入った場合	直ちに多量の水で15分以上洗浄すること。コンタクトレンズをしていて容易に取り外せる場合は取り外す。その後も洗浄を続けること。刺激が強まったり続く場合には医師の手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。直ちに医師の手当てを受けること。
応急措置をする者の保護	ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断/手当てを受けること。医療スタッフに物質が何であるかを伝え、自身の保護措置にも気をつけさせる。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
医師に対する特別な注意事項	症状に応じて処置すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	水噴霧。泡消火剤。粉末消火剤。二酸化炭素 (CO2)。
使ってはいけない消火剤	知見なし
火災時の特有の危険有害性	加熱および火災により有害な蒸気/ガスが生成されることがある。 窒素酸化物。(腐食性あり。)
特有の消火方法	もし危険を冒さずにできる場合は、火災区域から容器を移動させる。
消火を行う者の保護	消防士は、防火衣、ヘルメット、手袋、ゴムブーツを含む標準的な防護衣、自給式呼吸器 (SCBA) を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具、及び緊急時措置	関係者以外の立ち入りを禁止する。流出が著しくて回収が出来ない場合は、現地当局に通告すべきである。流出物質に触ったり、踏んだりしない。十分な換気を確保する。適切な保護具を着用する。
環境に対する注意事項	安全を確認してから、流出防止の措置をとる。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	全ての着火源を取り除く。 大量の流出：可能な場合は漏出物の広がるのを防止すること。プラスチックのシートで覆い、拡散を防止する。バーミキュライト、砂、土などの不燃性材料を用いて製品を吸収し、廃棄のため容器に収める。 少量の流出：布等の吸収材で拭き取る。残った汚染を除去する為に床をよく清掃すること。元の容器に回収して再使用することは絶対にさけること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策 (局所排気、全体換気等)	適切な換気を行う。

安全取扱い注意事項	取扱い/保管は慎重に行うこと。使用前に取扱説明書を入手すること。全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。適切な保護具を着用する。使用中は飲食や喫煙をしないこと。取扱い後は手をよく洗うこと。ミスト又は蒸気を吸入しないこと。皮膚に触れないようにする。眼に入らないようにする。長時間の暴露を避けること。
接触回避	『10.安全性及び反応性』を参照。
適切な衛生対策	休憩前や製品取扱い直後には手を洗う。汚染された作業衣は作業場から出さないこと。適切な産業衛生および安全対策のもとに取扱う。
保管	
安全な保管条件	施錠して保管すること。容器を密閉しておくこと。子供の手の届かないように保管すること。直射日光が入らない、涼しく乾燥した場所に貯蔵すること。
安全な容器包装材料	元の容器に保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度（暴露限界値）および管理濃度	含有成分に関して暴露限界は設定されていない。
設備対策	適切な全体換気・局所排気装置を設置する。洗眼設備を設置する。 施工後、少なくとも24時間はドアや窓の開放・換気扇の使用等を行い換気の良い状態にして下さい。
保護具	
呼吸器の保護具	作業者が暴露限界値を上回る濃度にさらされる場合には、適切な認定を受けたマスクを着用する必要がある。
手の保護具	保護手袋を着用すること。
眼、顔面の保護具	側板付安全眼鏡（またはゴーグル）を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観	
物理状態	ペースト。
色	灰白色
臭い	オキシム臭
融点/凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	該当せず
可燃性	高温で発火の可能性あり
爆発下限界(LEL)/可燃限界(下限)	データなし
爆発上限界(UEL)/可燃限界(上限)	データなし
引火点	> 62℃ (> 143.6°F) (密閉式) (燃焼継続性なし)
自然発火点	データなし
分解濃度	データなし
pH	測定不可 (水溶解性を参照すること)
動粘性率又は粘度	該当せず
溶解度 (水)	不溶
n-オクタノール/水分分配係数(log値)	該当せず
蒸気圧	微 (25℃)
蒸気密度又は/相対ガス密度	該当せず
蒸気速度	微 (25℃)
密度及び/又は相対密度	1.46 (25℃)
分子量	該当せず
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	通常の使用、保管、輸送条件下で起こる既知の危険な反応はない。
化学的安定性	通常の間では安定。
危険有害反応可能性	危険な重合は起こらない。
避けるべき条件	特になし。
混触危険物質	強酸化剤。 水、湿気。

危険有害性分解生成物

本品は水、湿気及び空気中の水分と反応して（加水分解）、下記化合物を生成する。
メチルエチルケトオキシム。
加熱又は燃焼により下記の分解生成物を発生する可能性がある。
一酸化炭素、二酸化炭素等の酸化炭素類、不完全燃焼により生成する微量の炭素化合物。二酸化珪素。窒素酸化物。ホルムアルデヒド。

11. 有害性情報

急性毒性

成分	種	試験結果
アルコキシシラン(A) (CAS 919-30-2)		
急性 経口		
LD50	ラット	1570 - 3650 mg/kg 1780 mg/kg
急性 経皮		
LD50	ウサギ	4290 mg/kg
アルコキシシラン(B) (CAS 1760-24-3)		
急性 経口		
LD50	ラット	2995 mg/kg 2400 mg/kg
急性 経皮		
LD50	ウサギ	> 2000 mg/kg

皮膚腐食性／刺激性

皮膚刺激：5mg／24hr 強刺激性（ウサギ） [アルコキシシラン(A)]
中刺激性（ウサギ） [アルコキシシラン(B)]

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

皮膚刺激。 [メチルエチルケトオキシム]
強い眼刺激。 [メチルオキシムシラン]
750µg／24hr 強刺激性（ウサギ） [アルコキシシラン(A)]
15mg 強刺激性（ウサギ） [アルコキシシラン(B)]
重篤な眼の損傷。 [メチルエチルケトオキシム]

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性
皮膚感作性

データなし。
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。 [メチルオキシムシラン]
[アルコキシシラン(A)] [メチルエチルケトオキシム]
陽性（ギニアピッグ） [アルコキシシラン(B)]

生殖細胞変異原性

陰性(Ames Test) [アルコキシシラン(A)]
陰性(Ames試験・染色体異常・小核試験) [アルコキシシラン(B)]

発がん性

発がんのおそれ。 [メチルエチルケトオキシム]

生殖毒性

生殖毒性:NOAEL 500mg/kg/day (ラット), 母性毒性:NOAEL 500mg/kg/day (ラット)[アルコキシシラン(B)]

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

下記の臓器に影響を与える可能性がある。
気道刺激性。 [アルコキシシラン(B)]

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

上部気道。麻酔作用。 [メチルエチルケトオキシム]
長期にわたるまたは反復暴露により下記の臓器に影響を与える可能性がある。

誤えん有害性

造血系。 [メチルオキシムシラン]
血液。造血系。 [メチルエチルケトオキシム]

その他の情報

区分に該当しない。

製造時の副生物として本品に少量含まれ、又空気中の水分と接触して硬化する時に徐々に生成するメチルエチルケトオキシムの有害性

皮膚刺激性 ; 軽度の刺激性あり。

眼刺激性 ; 強い刺激性あり。

急性毒性	； 経口LD50=>900mg/kg (ラット) 経皮LD50=>1000mg/kg (ウサギ) 吸入LC50 > 4.83mg/l /4h (ラット)
吸入毒性	； 高濃度で一時的な麻酔作用あり。その他血液機能への影響あり。
皮膚感作性	； 陽性 (ギニアビッグ、但し人では陰性)
神経毒性	； 高濃度で一時的な運動機能低下 (ラット)
発がん性	； 高濃度 (375ppm) でのラット及びマウスの生涯試験 (約2年) でオスのみに肝腫瘍が観察された。
変異原性	； in vitro および in vivo試験の結果に基づき変異原性とは見なされない。
その他の長期暴露試験；嗅覚上皮細胞の退化が観察された。(ラット、マウス) また、404ppmの濃度では、血液学的指標に有意の変動が認められた。	
許容濃度	メチルエチルケトオキシムメーカーの暴露ガイドライン； 3ppm(TWA), 10ppm(STEL), AIHA WEEL(米国産業衛生学会、作業環境暴露レベル； 10ppm(TWA)

12. 環境影響

環境影響データ

成分	種	試験結果
アルコキシシラン(A) (CAS 910-30-2)		
水生		
魚類	LC50 ヒメダカ	> 1000 mg/l, 48時間
アルコキシシラン(B) (CAS 1760-24-3)		
水生		
魚類	LC50 魚 (Brachydanio rerio)	597 mg/l, 96時間
甲殻類	EC50 オオミジンコ	90 mg/l, 48時間
		81 mg/l, 48時間
	NOEC オオミジンコ	> 1 mg/l, 21日
藻類	EbC50 緑藻 (selenastrum capricornutum)	5.5 mg/l, 72時間
	ErC50 緑藻 (selenastrum capricornutum)	8.8 mg/l, 72時間
生態毒性	水生生物に毒性。 [アルコキシシラン(B)] 水生生物に有害。 [メチルエチルケトオキシム]	
残留性・分解性	大気中または水中で容易に加水分解する。 [アルコキシシラン]	
生体蓄積性	データなし	
土壌中の移動性	データなし	
オゾン層への有害性	データなし	

➡メーカーに問い合わせてください

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

未硬化物：焼却処理。その際、シリカの微粉が生成いたしますので適切な設備での焼却をお願い致します。また、必要に応じて防塵マスク等の保護具の着用をお願い致します。 硬化物：埋設処理又は焼却処理。焼却の際は、シリカの微粉が生成いたしますので適切な設備の焼却をお願い致します。また、必要に応じて防塵マスク等の保護具の着用をお願い致します。

廃棄物処理法の許可を受けた業者に処理を委託する。

内容物／容器を地域／地方／国／国際規則に従って処理すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

IATA

危険物には該当しない。

IMDG

危険物には該当しない。

MARPOL73/78条の付属書Ⅱ及びIBCコードによるバルク輸送

本製品は、ばら積み輸送用ではありません。

国内規制

国内輸送については15章の規制に従うこと。

15. 適用法令

労働安全衛生法

特化則

第一類物質	該当せず
第二類物質	該当せず
第三類物質	該当せず

有機則

第一種有機溶剤	該当せず
第二種有機溶剤	該当せず
第三種有機溶剤	該当せず

通知対象物

ガンマ-アミノプロピルトリエトキシシラン

0.30 - 1.0 %
(令和7年4月1日から施行予定)

表示対象物

該当せず

毒物及び劇物取締法

特定物質	該当せず
毒物	該当せず
劇物	該当せず

化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律

第一種特定化学物質	該当せず
第二種特定化学物質	該当せず
監視化学物質	該当せず
優先評価化学物質	該当せず

化学物質排出把握管理促進法

特定第一種指定化学物質 (管理番号、物質名、含量)	該当せず
第一種指定化学物質 (管理番号、物質名、含量)	該当せず
第二種指定化学物質 (管理番号、物質名、含量)	該当せず

消防法

指定可燃物 (可燃性固体類)

船舶安全法・危規則

該当せず

航空法・施行規則

該当せず

火薬類取締法

該当せず

高圧ガス保安法

該当せず

海洋汚染防止法

該当せず

16. その他情報

引用文献

HSDB® - Hazardous Substances Data Bank

IARC発がん性評価モノグラフ

National Toxicology Program (NTP) Report on Carcinogens

ACGIH Documentation of the Threshold Limit Values and Biological Exposure Indices

日本産業衛生学会、許容濃度等の勧告

JIS Z 7252 : 2019 GHS に基づく化学品の分類方法

IS Z 7253 : 2019 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法 - ラベル、作業内の表示及び安全データシート (SDS)

日本化学工業協会 GHS対応ガイドライン、2019年6月

この安全データシートは、日本工業規格JIS Z 7253:2019に沿って作成しました。本記載内容は代表値であり、規格、および保証値を示すものではありません。また、推奨される産業衛生措置および安全な取扱い方法は、通常の実践において適用した方が良いと思われる内容を記載しておりますので具体的な用途や取扱い条件に照らして、推奨事項が適切かどうかご検討の上ご判断いただくようお願い致します。

本品は、一般工業用途向けに開発・製造されたものです。医療用その他特殊な用途へのご使用に際しては貴社にて事前テストを行ない、当該用途に使用する事の安全性をご確認の上ご使用ください。医療用インプラント用には絶対に使用しないでください。